

経済・政治・行政

(上)

東南アジアの自動車リサイクル事情

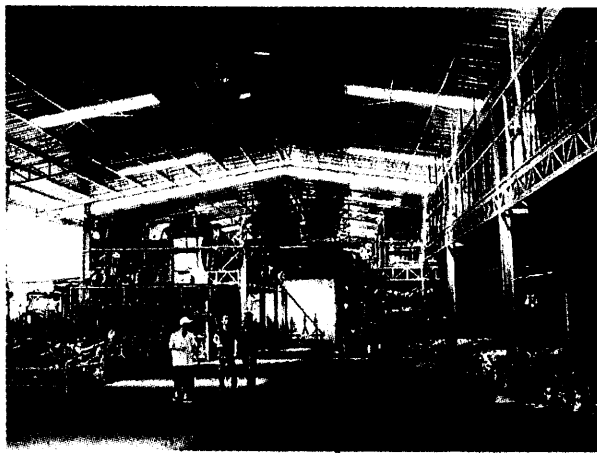
経営コンサルタント・西川幸孝

タイとの国境付近の拠点 都市アロスターにあるラジャ・コーポレーションという会社である。約1000坪の大きな倉庫兼作業場を持ち、隣接する土地も近く購入する予定という。在庫部品点数は約2万5000点に及び、この会社は自動車中古部品の95%を吉田商会を

はじめとする日本の企業から輸入しているが、販売先は、半がマレーシア国内の顧客、残り半分が国境を越えたタイから

日本から経営手法学ぶ

はじめとする日本の企業から輸入しているが、販売先は、半がマレーシア国内の顧客、残り半分が国境を越えたタイから



きれいでよく管理されている部品倉庫兼作業場

自動車中古部品を扱う企業が、大小あわせて約1000社あると言われている。自動車は貴重品であり、どこまでも直して使つので、中古部品の価値も高い。日本では価値の低いものでも、マレーシアでは貴重品である。また、販路は国内だけでなく、周辺諸国や中東にまで広がっている。

この地域では「解体」という概念がないとも聞いた。解体は自動車の最終処理に向けたプロセスだが、どこまでも使い尽くすので、解体＝処分という概念からは遠いのだ。アロスターからタイに入ったが、移動中に道路沿いにある小さな自動車修理屋をのぞいたところ、20年ほど前のトヨタクラウンに日産のエンジンを載せる作業をしていた。ここでは自動車修理屋はかじ屋に近い作業を行つて、メーカーの違いによるサイズ違いなどは、たいたり曲げたりして何とか収めてしまつたのである。(西川プランニング代表)